



昭和初期の玉淀（勝地玉淀絵葉書、平井英樹氏所蔵）

かわはく No.64

CONTENTS

春期企画展案内「玉淀今昔物語－田山花袋が絶賛した溪谷美－」	2
開催案内：スロープ展 春期企画展サテライト展示「玉淀の動植物」	3
お知らせ 大水車改修工事レポート －その3－	4
開催報告：臨時イベント「大水車解体工事見学会」	5
開催報告：おもしろ体験ワークショップ 「ほんものそっくりの人工イクラをつくってみよう！」	5
学芸員のお仕事紹介Ⅰ：「小学生を対象としたかわはく体験授業・出張授業について」	6
学芸員のお仕事紹介Ⅱ：「土」の学習をサポートします！ かわはくイベント・出張授業の報告とご案内	7
イベント情報コーナー4・5・6・7月	8



春期企画展案内

玉淀今昔物語 —田山花袋が絶賛した溪谷美—

2019年3月9日(土)～5月12日(日)

当館は平成9年(1997)に、埼玉の母なる川「荒川」を望む河岸段丘上に開館しました。目の前を荒川の清流が流れ、ここより2kmほど上流には「玉淀」という名の景勝地(埼玉県指定名勝)があります。

かつて「玉淀」は長瀬と並ぶほどの溪谷美に加えて、鮎漁と桜並木でも知られ、多くの観光客や文人墨客でにぎわいを見せていました。対岸の崖上には、戦国時代に築かれた鉢形城の遺構があり、そこからの眺望は、作家田山花袋が「東京附近で、これほど雄大な眺めを持った峡谷は他にはない」と絶賛したほどすばらしいものでした。

しかし、高度経済成長期を中心に盛んに行われた砂利採取や、昭和39年(1964)に完成した玉淀ダムによって景観が大きく変わってしまいました。展示では人との関わりを中心に、その変化を紹介します。

〈展示構成〉

1 玉淀とは？

秩父の山あいを流れ下った荒川は、関東平野への出口にあたる寄居町で美しい瀬と淵を創り出していました。大正2年(1913)、地元青年会が沿岸に桜を植樹したのがこの地の観光化の先駆けです。

その後、昭和10年(1935)に埼玉県の名勝、同26年(1951)には県立長瀬玉淀自然公園に指定さ



玉淀を讃えた玉淀碑

れ、一層の観光化が進みました。

2 桜と船遊び

昭和6年(1931)に「玉淀」と命名され、地元有志が桜並木に沿って遊歩道を設けたことで、「桜の玉淀」は一躍有名になりました。

船下りは秩父鉄道波久礼駅の近くで乗船し、奇岩や美しい河原を見ながら5kmあまりを下って玉淀河原で下船。途中、名物の鮎に舌鼓を打つこともあったようです。

3 訪れた文人たち

田山花袋が玉淀を訪れて絶賛したのは大正7年(1918)のことでした。大正時代には歌舞伎役者の七代目松本幸四郎が別邸を建て、宮沢賢治が訪れ、昭和になると「君恋し」や「祇園小唄」を作曲した佐々紅華が新居を構えました。この建物は今でも割烹旅館として使われ、作家池波正太郎もこの宿に泊まって連載小説を練っています。

4 砂利採取と玉淀ダム

高度経済成長期にはインフラ整備のため各地の河川で砂利採取が行われました。荒川も例外ではなく、砂利の河原が広がる玉淀では砂利採取船が活躍していました。

東京オリンピックが開催された昭和39年(1964)には、発電と農業用水確保を目的とする県営の玉淀ダムが完成。しかし、このダムによって荒川は分断され、下流への砂利の供給がなくなって、玉淀の河床は急激に下がってしまいました。

5 描かれた玉淀

有名無名、数多くの画家がここで絵筆をふるっ



玉淀の船遊び(昭和8年、中島紳介氏所蔵)



横山大観「荒川絵巻」(大正4年、写真提供:株式会社ヤマタネ)



てきました。日本画の巨匠、横山大観と川合玉堂の作品の中にも玉淀を描いたものがあります。

洋画では「東洋のセザンヌ」と言われた安井曾太郎が、戦後しばらくの間、玉淀を望む地に疎開しており、玉淀を描いた作品を残しています。

6 玉淀の祭り

荒川を舞台に行われている玉淀水天宮祭、寄居北條祭り、佐太彦神社の川瀬祭り、荒川いかだ下りの4つを、祭りで使われている道具や写真で紹介します。

7 玉淀の今

砂利の河原や深い淵が減り、かつての面影を失ってしまった玉淀ですが、河原に下りてみると、県指定名勝ならではの豊かな自然が随所に残されていることがわかります。ダムによって生まれた



玉淀水天宮祭の舟山車

玉淀湖では、四季の景色を味わいながらカヌーやカヤックを楽しむことも。

また、「一年中桜に出会える町よりい」を目指すグループは、玉淀周辺にもたくさんの桜の苗木を植えています。やがては、桜の玉淀、が復活することでしょう。

〈見どころ〉

景勝地「玉淀」の過去と現在。数々の古写真や絵画からは当時のにぎわいが伝わってきます。一方最近では町を挙げての祭りが盛んになり、祭りの玉淀、と言えるほどです。

また「江戸時代の玉淀」「鮎漁と鮎料理」というコラム展示も用意しましたのでお楽しみください。

関連イベント

①玉淀散策と鮎飯

3月29日（金）実施済み

②玉淀と鉢形城にまつわる民話を聞く会

- ・日時－4月13日（土）13:30～15:00
- ・場所－川の博物館ふれあいホール
- ・内容－「よりい民話研究会・民話語り“きいてみい”」の会員が地元で伝わる興味深い民話を紹介します。
- ・定員－70名 参加無料
- ・申込み方法－電話受付（先着順）

（研究交流部 大久根茂）

スロープ展「玉淀の動植物」

開催期間：2月5日(火)～6月16日(日) 会場：本館第1展示室 スロープ展示

玉淀は荒川の中流部に位置し、速い流れの瀬、ゆったりと流れる淵など、変化にとんだ川の流れを持っています。川岸に目を向けると絶壁の岩肌や、ゴロゴロとした石が広がる河原などの多様な環境がみられます。また、草むら、河畔林、ワンドなどもみられ、様々な動植物が記録されています。



カジカガエル

しかし、魚影は川の流に溶け込み、植物は花を咲かせる時期が限られ、鳥類はその素早い動きや保護色などから見つけにくく、哺乳類や両生類は人々が寝静まった深夜に活動するなど、様々な動植物を目にすることはあまり容易ではありません。四季の移り変わりの中で、玉淀でみられる動植物のごく一部を紹介します。



キツネノカミソリ

（研究交流部 藤田宏之）



おしらせ

大水車改修工事レポート - その3 -

2019年2月4日(月)、大水車の解体がいよいよ始まりました。大水車の周りには安全対策の為、フェンスが設置されて多くの作業員が解体の準備を始めました。

2月5日(火)は、大水車の水受け(バケット)部の解体を行いました。解体された一部を50tクレーンで吊り上げた時は、解体を見学していた職員やスタッフ、お客様が「天を仰ぐ」様に見上げていました。吊り降ろされた水受けは、トラックに乗る大きさにまで解体されてから運び出されました。水受けは、1日で解体されて「ゴコウ」と言う水車の中心から延びる12mの角材の骨組みだけが残りました。

そのゴコウも、2月6日～7日の2日間で解体され、軸の鉄部だけが残りました。

軸の鉄部が一番緊張する解体工事です。当初は、そのまま50tのクレーンで吊り降ろす予定でしたが、軸部が外れず、周りの鉄部を細かく裁断して軸部を下す結果になりました。



【解体された大水車】



【吊り降ろされた水車の軸】



【大水車水受け部の解体】



【50t クレーンで吊り下げ】

今回、解体された木材は、火力燃料として再利用されます。軸の鉄部、水車の多くの木材を繋げていたボルト(質量:約2.5kg)、固定鉄板は鉄の再利用として使われます。

川の博物館のシンボルだった大水車を取り外されてから、軸受の土台の煉瓦が淋しく感じられます。

今後の予定は、軸受の土台の高さは変わりませんので、大水車が大きくなる分、下の土台(河川部)を削り、新しい水輪がこすらない様になります。この工事に約1か月掛かる見込みです。組立工事はゴールデンウィーク明けから行われる予定です。

日々、改修工事は進んでいます。お客様にも大水車の無い土台を見ていただけたらと思います。

工事は、まだまだ続きますので、今後もお報告させていただきます。

(経営管理部 高石勉)



開催報告

「大水車解体工事見学会を開催しました。」

開催日：平成31年2月5日(火)

2019年2月5日、いよいよ水車の解体工事が始まりました！



【写真① 解体工事を待つ水車】

工事開始の前日は大風が吹き、工事が中止にならないかと不安になりましたが、当日は穏やかに晴れ、工事は予定通り行われました。

見学会はかわはく食堂で、11時、13時、14時の3回行われ、計37名の参加がありました。

職人さんから、水車の仕組みや工事の手順、目の前で行われている作業などについて、説明していただいたあと、特別にベランダから見学しました。

解体され、クレーンで釣られた水車の水受けが宙に浮かんで目の前を通り過ぎる様子は、とても見応えがありました。



【写真②(左) 見学する参加者のみなさん】
【写真③(右) クレーンで釣られた水車の水受け】

2019年夏ごろには、また「日本一の水車」となった真新しい大水車がお目見えする予定です。その時まで、楽しみにお待ちください。



【写真④ 降ろされた水受け。トラックに乗せて運ばれました。】

(広報担当 若目田葉子)

開催報告

おもしろ体験ワークショップ 「ほんものそっくりの人工イクラをつくってみよう！」

開催日：平成31年1月27日(日)

1月27日(日)、中学理科教師による「おもしろ体験ワークショップ～ほんものそっくりの人工イクラをつくってみよう！～」を開催しました。授業の枠から離れて実験や体験をする試みで、多くの子どもたちに「理科を楽しんでもらえたら…」と、県北中学校の理科教師有志による、ボランティアワークショップが実現しました。

1階リバーホールの一角に簡易実験コーナーを作り、この実験コーナーで、アルギン酸ナトリウムの水溶液に食紅を溶かした液を、塩化カルシウムの水溶液にピペットで一滴ずつ垂らすと、アルギン酸ナトリウムの膜ができ、水溶液の中に人工イクラがコロコロとできあがります。力みすぎて水玉にならず、ニユルニユルとうどんのような人工イクラになってしまい…、担当の先生から「これはこれでありッ！」と言われ、にっこりする親子の姿もありました。

塩化カルシウム水溶液の入ったプラコップの中に、イクラ色のオレンジばかりでなく、絵の具で染められた黄色やピンク、緑などのカラフルな人工イクラに子どもたちは目を輝かせていました。

「グラスに入れて飾ったらきれいなインテリア

になる」とお母さん方にも好評のイベントでした。

お土産に、試験管とビニル袋に入れたカラフルイクラをもらった子どもたちは笑顔いっぱいでした。

2月24日(日)には、ろ紙を使った「ペーパークロマトグラフィーアート」を開催。今後もお土産を持って帰ることのできるワークショップを目指します。



【イベントの様子とお土産を手にも笑顔の少女】

(事業戦略室 萩原幸仁)



学芸員のお仕事紹介 I

「小学生を対象とした かわはく体験授業・出張授業について」

当館では、主に小学生を対象とした体験授業や出張授業（出前授業）に力を入れて取り組んでいます。学芸員の仕事内容は人それぞれ様々ですが、当館で働いている学芸員の仕事と言えばまさに「体験授業」の対応と言ってもいいほど、毎年多くの子どもたちに授業を行っています。よく小学生に「学芸員の仕事は何ですか？」と聞かれることがあります。その時に「博物館で学校の先生のようなお仕事をする人達です」という説明をしています。この説明もあながちウソではないくらいに当館では体験授業（出張授業）を行っています。

当館ではどのような授業を行っているのでしょうか？そこはやはり当館が「川」をテーマとした博物館ということもあってか、学校から依頼される内容としては「川」に関する学習を手伝ってほしいという依頼が大多数を占めます。

例えばどんな依頼が届くのか？小学校5年生の理科の単元で、「流れる水のはたらき」という単元があります。川の3つのはたらき、「浸食・運搬・堆積」について学ぶ単元です。

よく当館で行っているのは、この3つのはたらきを、学校のグラウンドの砂場に大きな砂山を作って、砂山にホースで水を流すという実験をしながら学んでもらうという出張授業です。「実験」と言えばかっこよく聞こえるのですが、「砂場に大きな山を作って水を流す」という説明からもおわかりいただけるように、要は「泥んこ遊び」をしながら、難しい内容（頭の中でイメージしづらい内容）を楽しく学んでもらうというのが、当館の出張授業の内容であると同時にセールスポイントです。あわせてこの出張授業では実験だけを行うだけではなく、主に荒川流域で撮りためた写真を使用して、実際の川はどうなっているのか、写真で紹介する授業もあわせて行うようにしています。またその際には、学習している内容がなるべく子どもたちにとって身近に感じてもらえるように、荒川だけではなく、学校の側を流れている川も題材に入れながら授業を行うようにしています。

他にはどんな依頼がよく届くのか？授業のテーマはやっぱり「川」。学校の側を流れている川を

調べる学習のお手伝いによく出かけます。川にはどんな生き物がすんでいるのか、川にはどんな石があるのか、川にはどんな植物が生育しているのか、川の水はキレイなのか、等々。生き物を調べる学習では実際に子どもたちと一緒に川に入って生き物を捕まえたり、川に入るのが難しそうであれば、一緒に川の周りを歩いてみたり（探検してみたり）、普段教室で行っている授業とは違う、まさに「体験」授業になるように、様々な工夫をしながら毎回授業を行っています。

今回は当館によく依頼が届く川をテーマとした学習事例を2つ紹介しましたが、当館に寄せられる依頼はもちろんこれだけではありません。毎年毎年実に多種多様な依頼が届きます。毎年依頼内容が多様化しているといってもあながちウソではありません。

もし、この記事をお読みになられて、自分達もやってみたい、こんなことは依頼できるのかな、少しでも興味を持たれましたらぜひ当館までお声掛け下さい。学校の先生に限らず、保護者の皆様からの問い合わせもお待ちしております。

もちろん体験授業の対象は小学生の子どもたち限定というわけではありません。大人の皆さんの学習のお手伝いも行っています。

ひとまず気になったら、学習方法に行き詰ったらずひ当館までご連絡ください。皆様のご連絡をお待ちしております。



【学校の側を流れる川での体験学習（川越市立名細小学校）】

（研究交流部 羽田武朗）



学芸員のお仕事紹介Ⅱ

「土」の学習をサポートします！ かわはくイベント・出張授業の報告とご案内

みなさん、地面の土のことをどのくらいご存知でしょうか？ホウセンカは種から育ち、根・茎・葉がある。カエルは卵からオタマジャクシになり、水から出てカエルになる。植物や動物のことはちょっと知っているよ、という方は多いでしょう。では土は何からどのように「できる」のでしょうか？岩石はマグマが地面の上に出てきたり、またそれが沈みこんだりしてできるようだけど、土は何なの？どうやってできるの？

命を育む大切な土のことをもっと知ってほしい、と考えてかわはくで行ったイベントなどを報告します。またの企画の際には是非ご参加ください。

土って何？土と砂のちがい（7月15日）

土と砂を見たりさわったりして、どんなちがいがあるかを観察しました。色や粒の大きさに気づけば拍手！ペットボトルに土と水をいれて振ってみると、土の中には色々な大きさの粒があることを確かめてみるができます。



この日はさらに、同じ重さの土と砂に水をかけて、どのように水がしみこんでいくか、という実験も行ってみました。

土の色を調べよう（10月14日）

土の色はその土がどんな土かを知る大事な手がかりです。土の材料や、まわりの環境（気候・植物・湿り具合など）によって土の色は黒・赤・黄・灰・茶とさまざま。また、地面の上に近いのか、少し深いところの土か、によっても色が異なります。色々な場所の土の色を観察したり、土の色のイメージを聞いてみたりしました。

土の中の生きものを調べよう（11月18日）

土の中にはミミズ、ワラジムシ、トビムシなど色々な生きものがいます。ダニはいやなイメージかもしれませんが、ダニの大半は森の土の中にいて、その大半は落ち葉を食べる森の掃除屋さんです。そんな話をしながら、土の生き物を実体顕微鏡で観察しました。また、ちょっと人気のクマムシは、大変小さく見つけにくいのですが、採取したコケから何とか発見！動く姿を観察しました。

土のすきまを調べよう（12月2日）

石や砂の中と、土の中では生き物はどちらにたくさんいるのでしょうか。「土」と思った方、それはなぜでしょうか。ひとつの答えは土の「すきま」にあります。すきまがあると、空気や水を保つことができます。ではどのくらいのすきまがあるのか、水槽を使って確認してみました。



他にも、「土でアート」という土の粒や森の落ち葉を使ったワークショップも行いました。

出張授業：武蔵野台地のつくりと土壌

東京都調布市の学校からの依頼で出張授業に行きました。関東ローム層の積み重なりを観察できる露頭があり、その成り立ちと地表面にできた土壌についてスライドの座学を含め、解説しました。

土を実際に観察・実験する機会は少ないかもしれませんが、新学習指導要領に土の粒について学ぶ項目が新設されました。上記のような講座は出張も可能です。是非お気軽にお声掛けください！

（研究交流部 森圭子）

4月

3/9/土~5/12/日

平成30年度春期企画展「玉淀今昔物語」

2/5/火~6/16/日

スロープ展「玉淀の動植物」

7/日

かわはくであそぼう・まなぼう「絵馬づくり」

時間：13:30~15:30

費用：無料

内容：好きな絵や願いごとを書いて部屋に飾ってみよう。

13/土

企画展関連イベント「玉淀と鉢形城にまつわる民話を聞こう」

時間：13:30~15:00

場所：ふれあいホール

費用：無料

定員：70名 ☎ ※このイベントは電話のみで受付します。

内容：「より民話研究会」会員が地元で伝わる民話を語ります。

20/土

かわはく体験教室「りんぶん転写~チョウのはね模様をコピーしよう」

時間：13:30~15:30

費用：100円(材料費)

定員：15名 ☎

内容：りんぶんを紙に写し取る「りんぶん転写」の作業をします。どうしてそんなことができるのか、チョウのはねを観察して確かめます(協力：多摩六都科学館)。

21/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~「オタマジャクシを観察しよう」

場所：荒川情報局

時間：13:30~15:30

費用：無料

定員：随時2組ほど

内容：早春に産卵するカエルのオタマジャクシを観察してみましょう。

21/日

荒川ゼミナールⅠ川を知るウォーキング「元荒川を歩く3」

時間：10:00~16:00(予定)

集合：越谷レイクタウン駅周辺

費用：300円(保険料・資料代)

定員：20名 ☎

内容：瀬替え前の頃の荒川と利根川の合流点周辺を散策します。

5月

5/25/土~6/16/日

5月企画展「東京藝術大学学生による「荒川・利根川・多摩川」作品展」

3/金・祝~5/日・祝

かわはくGWまつり

時間：10:00~16:00

内容：日替わりで様々なイベントを開催予定です。

5/日

かわはくであそぼう・まなぼう「地質の日記念・ストーンペインティング」

時間：13:30~15:30

費用：無料

内容：荒川の小石に絵を描く体験をします※材料がなくなり次第終了。

11/土

荒川ゼミナールⅡ荒川の源流を訪ねる「荒川源流域の入口探検(仮)」

時間：10:00~16:00(予定)

集合：三峰口駅周辺

費用：300円(保険料・資料代)

定員：20名 ☎

内容：荒川の源流域を散策する企画の第1弾として、秩父鉄道の終着駅三峰口駅周辺を散策します。

19/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう!」

場所：かわはく周辺

時間：①10:00~11:00 ②11:00~12:00

③13:30~14:30 ④14:30~15:30

費用：無料

定員：各回10名ほど(当日9時より予約受付)

内容：学芸員と一緒にかわはく周辺の地形や川のはたらき、荒川の歴史等について学びます。参加者の方に当日自分「学びたいテーマ」を1つ~2つ選んでいただきます。

25/土

かわはく体験教室「昔の暮らし体験-運ぶ道具のいろいろ-」

時間：13:30~15:30

費用：無料

定員：15名 ☎

内容：水桶・背負子など各種運搬具を使い、その重さを実感してみましょう。

6月

6/21/金~9/1/日

スロープ展「ネズミの本を紹介します」

1/土

かわはく体験教室「カジカガエルの鳴き声を聞こう」

時間：19:30~20:30(予定)

費用：100円(保険料)

定員：15名 ☎

内容：夜の川を音(カエルの鳴き声やせせらぎの音)で観察します。

2/日

かわはくであそぼう・まなぼう「環境の日記念・水質調べ」

時間：①10:30~12:00 ②13:30~15:00

費用：無料

内容：環境の日にちなみ、水質検査キットを使って水質調査の体験をしていただきます。※材料がなくなり次第終了。

16/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~「ミジンコを観察しよう」

場所：荒川情報局

費用：無料

定員：随時2組ほど

内容：小さな生き物のミジンコを観察します。

23/日

かわはくで緑に親しもう「お家に緑を持って帰ろう」

時間：10:00~15:00

内容：ミニ盆栽やこけ玉を職人さんと一緒に作りましょう!

7月

7/13/土~9/1/日

平成31年度特別展

「根・子・ねずみ~ネズミワールドへようこそ~」

7/日

かわはくであそぼう・まなぼう

川の日記念「七夕かざりづくり」

時間：①10:00~12:00 ②13:00~15:00

費用：無料

内容：川の日を記念して、七夕かざりを作って荒川大模型173に飾ります。

20/土

かわはく体験教室「竹の水鉄砲づくり」

時間：13:30~15:30

場所：講座室

費用：200円(材料費)

定員：25名 ☎

内容：竹を使った水鉄砲をつくり、的当てを楽しみます。

21/日

かわはく研究室~川・自然・歴史~

「土のはたらきを調べてみよう-土の中の生き物-」

場所：荒川情報局

時間：13:30~15:30

費用：無料

定員：随時5組ほど

内容：土の大切なはたらきとは?生き物をキーワードに、土を調べる簡単な実験を紹介します。

27/土

特別展関連イベント「ネズミトーク」

時間：①11:00~12:00 ②13:30~14:30

場所：リバーホール

費用：無料

定員：30名程度

内容：ネズミの生態や展示内容などを解説します。

28/日

かわはく夏まつり

時間：10:00~16:00

富士見市で発見された半透明のニホンアマガエル

かわはく No.62で紹介しました青いアマガエルに続き、同じ場所でさらに珍しい半透明のアマガエルが見つかりました。部分的に黄緑色ですが、お腹も半透明でとてもきれいなカエルです。(協力：吉野 正氏)



ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日(午前中)までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
他にホームページのフォームからお問い合わせいただけます。

彩の国
埼玉県

2019年3月31日発行

